

LA VIDA EN MÉXICO

～メキシコでの研修を終えて～

TAKU MINAGAWA Vol.12

□□帰国して

月日が経つのは本当に早いもので、帰国して早1か月が経ちました。日本で家族や友人たちにメキシコでの話をするたびに、メキシコの素晴らしさ、体験することができた日々の豊かさを改めて実感します。

「メキシコにいて危ない目に合わなかった??」メキシコから帰国して、最初に友人たちから心配される事です。日本ではメキシコ＝危ない、麻薬などのイメージが強いですが、実際はそんな事はありません。実際一年生活しましたが、幸いにも物を無くしたり、スリや脅しなど危険な目には一度も会いませんでした。当然危険と言われている地域や場所はありますが、それらのエリアに近づかない、常に身の回りに気を付ける、などの心持があれば問題無く過ごすことができます。

私が一年を通じて見てきたメキシコ、それは温かく、生き生きとした人々の姿と街でした。メキシコの人々は本当に親切で、困っているとすぐに助けてくれます。電車で知らない人々同士でも話してしまうようなフランクさがあり、日本に帰国するとメキシコの人々の温かさがとても恋しくなります。

メキシコは地方都市も豊かです。オアハカ、プエブラ、メリダ、グアナファト等、学校で長期休みとなる度にメキシコ各地を旅行しましたが、それぞれに特色や文化の豊かさがあり、とても一年では回り切れないほど、訪れたいと思う街がたくさんありました。

□帰国して気付く日本の良さ

冒頭でメキシコでは危ない目には合わなかったと記載しましたが、それは常に危険なことが起きないよう周囲に気を配らせていたからです。

日本ではどこにいてもその心配は無く、安心して公共交通や街中を歩くことができます。

私たち日本人にとっては当たり前の事なのですが、海外で長期に暮らしてみて、平和であることや安全であることの大切さを身に染みて感じました。事実、メキシコでは子供を外で一人で遊ばせることは安全上の配慮からできないので、必然的に外に出る回数が減り、子供の肥満が大きな問題になっているほどです。

また、メキシコの人々は日本に非常に良いイメージを持ってきています。私たちの文化の豊かさ、歴史、食の豊かさ、街の綺麗さ、安全さ、車や家電製品などの品質の高さ、私たち日本人の丁寧さ、律義さなどをメキシコ各地で耳にしました。そんなイメージの良さもあってか、世界におけるスペイン語圏の中では、メキシコが一番日本語を学ぶ人が多いと言われているほどです。

海外に長期で滞在すると、改めて日本の良さ（良くない点も含め）、そしてだからこそメキシコの素晴らしさを肌で感じることができました。

□大変だったこと

メキシコで生活して一番大変だったこと、それは健康管理です。そもそもメキシコシティ(以下シティ)は標高 2,250m がある高地ですが、平地と比べると酸素量が 20%も少なくなり、少し走ったり階段を上ったりするだけで息切れとなります。また、酸素が少ない分、頭がぼーっとしたり、集中力が続かなくなる事がありました。またシティは大気汚染も深刻なのですが、乾季となる6月などはシティ近隣で大量の山火事が発生し、シティ全体が大量の汚染空気に包まれる事態となりました。学校は休校となる日が何日か続き、外にいる時はもちろん、室内にいても汚染によるひどい頭痛を感じました。

LA VIDA EN MÉXICO

～メキシコでの研修を終えて～

TAKU MINAGAWA Vol.12

また、苦しんだのは食あたりです。タコスを始めとするメキシコ料理は大変美味しく、とりわけ道で売られているタコスやトルタなどの料理が非常に安く美味しいのでつい食べちゃうのですが、1・2か月に1回は路上の食べものや旅行先で食あたりになっていました。

全ての露店の食べ物が当たるわけではないので、「ここは当たらないな」と言う信頼のおけるタコス屋さんを見つけ、タコスを楽しむのが食あたりにならない為の作法だと感じました。

□□メキシコで達成できたこと: 全体リーダーの役割

今回の留学で私は研修生全体(全34人)のリーダーを担当させて頂きましたが、その役割を果たすことは大きな学びとなりました。研修生は大学生から社会人まで、日本全国から参加しているメンバーで構成されていましたが、研修生全体が上手くコミュニケーションを取れるように小まめに連絡をしたり、リーダーとしてメキシコ大使館や研修を統括している政府組織 CONACYT とのやりとりを日々行っていました。

当然、普通の研修生活以上の活動をしなければいけないのでやる事は多かったです。その分、留学生活で問題が起きた時などは皆が一致団結して取り組むことができ、大きな問題も起こること無く、皆が笑顔で帰国をすることができました。

留学の締めくくりとなる CONACYT のセレモニーでは、リーダーとしてスピーチをスペイン語でする機会を頂き、留学生活の締めくくりの言葉と関係者皆様への謝辞を伝えることができました。

□□メキシコで達成できたこと: 建築の活動

私はメキシコに渡航するまでは日本で設計活動をしていましたが、1人の建築家として、ルス・バラガン邸と仕事場(世界遺産)でガイドのボランティア活動ができたこと、またイベントの仮設空間ですが、現地で実際にもの作り事ができたことは素晴らしい経験になりました。国や場所は違いますが人間にとって建築・空間を作ると言うのは普遍的な行為であり、こちらでの建築活動で得た多くの学びは、日本でも活かせることが多いと感じています。

□□これからの日本での活動

私は建築設計の仕事をしていますが、帰国した現在は自分自身の設計事務所を設立する為に色々と準備をしている段階です。

独立開業していくのは大変なことではありますが、メキシコで得た経験をもとに、より良い建築・空間づくりができるよう精進して行きたいと思えます。また、いずれは日本のみならずメキシコにも自分の設計事務所を立ち上げることを考えており、将来的には日本とメキシコの2拠点での建築設計活動を行い、グローバルな視点で建築の世界と向き合っていきたいと考えています。

□□これから留学をされる皆様へ

このレポートを読まれている皆様の中には、メキシコへの留学を考えている方もいらっしゃるかと思います。私が体験してきた様々な経験は過去のレポートを見ていただければと思いますが、伝えたい事は、「とにかく積極性をもって取り組む、外にでる、繋がりを作る」という事です。

語学研修機関である CEPE/UNAM では素晴らしい教育環境が整っていますが、そこで学んでいるだけではメキシコ人の友人や繋がりを作るこ

LA VIDA EN MÉXICO

～メキシコでの研修を終えて～

TAKU MINAGAWA Vol.12

とはできません。積極的に外に出てメキシコ人との交友関係を作ろうとしないと、日本人同士や CEPE に留学している外国人のみとの交流で終わってしまうので(もちろん、それも素晴らしい繋がりの一つです)、例えば友人のフィエスタに参加することであったり、CEPE 以外での活動(ダンスでもなんでも)やインターンシップなどをされることをお勧めします。

一度メキシコ人の友達ができる、そこからどんどんメキシコ人の友人の輪が広がっていきます。そしてそこで気付くのは、CEPE で学んでいるスペイン語は優等生的なスペイン語であり、実際のメキシコ人友人や道で話されているスペイン語レベルに到達するにはまだまだ隔たりがあり、もっと勉強していかなければいけないということです。

実際、私は CEPE で最上級クラスのスペイン語まで履修しましたが、それでも友達の話すスラングやブラックユーモアを理解するのは大変でした。ネイティブレベルに達することの難しさを感じれたからこそ(おそらくあと2-3年のスペイン語の勉強が必要になると思います)、帰国した今でも、もっとスペイン語を頑張ろうと日々勉強を続けています。

□謝辞

本研修プログラム参加の為に推薦及びサポートを頂いた埼玉県の皆さま、外務省およびメキシコ大使館の皆さま、メキシコ政府機関として現地でのサポートを行っていただいた CONACYT の皆さま、本当に一年間お世話になり、ありがとうございました。

研修を通じて、人生を変えてしまうような多くの経験を積むことができ、さらにより良い日本-メキシコの交流へと発展できるよう、これから努力していきたいと切に思うとともに、この日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画の制度が長く続いていくことを願います。

